

技術士資格がキャリア形成の大きなプラスに

——まず、これまでのキャリアと現在の仕事についてお話しいただけますか。

岩熊——私が大学へ入った当時は、土木工学や環境工学といった選択肢はありませんでしたので、広い分野を学べるということから農芸化学科へ進みました。当時は水質汚染が非常に問題になっており、選択の講義で学んだ公害論が印象に残りました。そこで、卒業生のほとんどが医薬・食品系へ就職する中、環境調査部門を設立したばかりの建設コンサルタント会社、建設技術研究所に入社しました。最初は、化学分析やデータの取りまとめを行う専門職からのスタートでした。環境関連の水質調査では当時マニュアルもまだ整備されていませんでした。米国の文献を訳し、自分たちで実施可能な方法を試し、答えを出していくしかありません。当時大きなテーマだったのが、霞ヶ浦の水質汚濁のメカニズムの解明です。水質の汚濁の要因のモデル化を考え、モデル化された要因を検証する仕事の中で、多様な調査や実験、実測方法を工夫し、答えを求めていきました。新しいテーマであり、自分で考え、試すという経験ができたことは幸運なことでした。

私自身は、女性であっても仕事をずっと続けることは当たり前と思っていました。28歳で環に学ぶ女子学生へのアプローチです。女性がキャリアを積んで生きていくためには、資格は男性以上に重要だということで、技術者を目指す若い女性にアピールするとともに、企業の方に対してその重要性を訴える活動を行っています。

一方、女性技術士の会は、技術士会での出会いをもとに約20年前に設立されたもので、2007年に非特定営利活動法人(NPO)として新たにスタート。幅広い技術分野に対応できる技術者集団という会の特徴、生活者としての知識と経験を活かし、広く一般市民を対象として科学技術発展のための普及啓発事業に取り組んでいます。これまでイベントへの参加、シン

岩熊

IWAKUMA
Maki

まき

さん

に伺いました

女性技術者としてキャリアを開拓してこられた立場から、若手の女性土木技術者への期待を伺った。

境計量士の資格を取得しましたが、それにも増して、大きな転機となったのが、32歳のときに取得した技術士の資格でした。当時の勤務先では、技術士を受ける年次になると、受験書類などを取り寄せてくれるのですが、女性の私には配ってもらえないということもありました。しかし、資格を取得して以降、会社でも評価は大きく変わりました。それまでは「あいつは誰？」といった存在だったのが「岩熊か」と言われるようになりました。土木技術者女性の会の30周年の総会でも話し合ったのですが、皆さん女性にとつて資格は大事ですよと口を揃えておっしゃっていました。

ポジウム開催、技術者を目指す若い女性との懇話会などを重ねてきました。今後もうこうした活動をさらに発展させていきたいと考えています。

常に勉強することを忘れてはいけない

——これまでの自身のキャリアを踏まえ、若手の女性土木技術者への期待をお聞かせください。

岩熊——私は若い時分には、とにかくひたすら働いていました。技術士合格3年半後の36歳で課長になり、その後女子を出産しました。当時

技術者を指す若い女性を支援

——日本技術士会男女共同参画推進委員長、NPO法人女性技術士の会理事長としても活躍されていますが、それぞれの活動について教えてくださいいただけますか。

岩熊——日本技術士会では、技術士の知名度向上活動の一環として広報戦略特別委員と同時期に、時代の要請で設置された男女共同参画推進委員長を務めています。世間での男女共同参加とは少し異なり、女性技術者のキャリア形成という視点で、技術士の取得を推進する活動を進めています。具体的には、一つは企業に働く女性技術者へのアプローチ。もう一つはJABEE課程

キャリアを積みながら、子どもをつくるということとは考えられませんでした。しかし、ある程度キャリアを積んで高齢出産ギリギリで子どもを産むと、キャリアがあるので辞めさせられないというアメリカの記事を読んで、それも一つの方法だと思いました。そのときに助けになったのが、「土木技術者女性の会」など周りの人とのつながりです。皆さんいろいろ創意工夫をされて、タイミングを見計らいつつ、キャリアと結婚、出産、子育てを両立されているのです。そういった仲間の話を聞くことで、自分もできるのではないかと勇気づけられました。その経験から、後輩を応援できればと、女性技術者のネットワークに積極的に関わり、30年になります。

今は女性が孤軍奮闘しなくても働いていける環境が少しずつ整ってきました。女性技術者がいて当たり前前の社会風土も確実に芽生えています。だからといって、技術者は常に勉強することを忘れてはいけません。そこは会社のためというより、自分自身のために勉強をして欲しいと思います。そして、そこではプロフェッショナルとは何かということを自分なりに考え、意識してください。今はWEBで何でも情報が得られます。だからこそ、その中から自分にプラスになる情報を選ぶ目が必要になります。また、生活習慣が異なる外国の方とでも、相手の立場を理解し、人の話を聞くことができる国際コミュニケーション能力も大切です。ぜひ、若い女性には、社会と向き合い誇りを持って進んでいくって欲しいと思います。

